

# 酔いどれ 取材メモ

「ご無沙汰しております。酒好き事件記者の酒匂徳利です。新時代の幕開けを迎えました。皆さんも気持ち新たにそのときを迎えたのではないのでしょうか。」

とはいえ、本稿執筆時は、イチローの引退など、何かとざわつく平成末期です。おかしな輩も飛び出す花見の季節とも相まって、酒絡みの事件も後を絶たない。時代が変わったからといって、この手の事件が激減するとは思えないが、徳利の徳さん<sup>トク</sup>は酒を冒流する奴を絶対に許さない。愛する酒への恩返しのため、平成最後の「酔いどれ取材メモ」で筆を走らせるとするか……。



3月1日、気象庁は、12月から2月の気温の半年差を発表したが、それによると、全国的に半年を上回り、東日本から沖縄・奄美で暖冬（平年値より+0.5℃以上高い）だったという。ちなみに東京では例年に比べ1.5℃高く、暖冬の原因は、昨年から続く「エルニーニョ現象」などの影響で寒気が流れ込みにくく、冬型の気圧配置が長続きしなかったためらしい。確

かに、2月の3連休で大寒波が襲来した記憶があるが、東京では大雪は降らなかった。極寒では外出を控えるから、酒絡みの事件も少ないが、暖冬の今年は例年を上回る勢いで事件の報告が増えている。

2月21日、東京・小岩の飲食店の従業員ら2人が、急性アルコール中毒により店内で死亡した44歳の男性客の遺体を路上に放置したとして、死体遺棄容疑で逮捕された。逮捕容疑は昨年10月に飲食店前の路上に酔い潰れた男性を放置したことだが、容疑者らは「お客さんを路上に出して置いたことは認めるが、亡くなっていたという認識はない」などと供述している。

中国のジャングルでもあるまいが、兵庫県の西宮市のフッシュで、大トラが捕獲された。22日午後10時前、西宮のマンション1階の庭に、フエンスを乗り越えて侵入した47歳の市職員が逮捕された。近所の住民からの110番通報で署員が駆け付けると、市職員はマンションの庭で寝そべっていたという。「酒に酔ってトイレに行きたくて彷徨っていた。住民の目を逃れようと庭に隠れようとした」という、なんとも情けないトラだった。

それにしても公務員による酒事件は少ない。理不尽なモンスタークレマー対応で苛ついている職員もいるだろうが、その不満解消を酒に求めているいけない。公務員が事件を起こすと、倫理観を問うとして報道も派手。もっとも自身の一生を棒に振る羽目になる。

2月末には、酒により小学生と中学生の男児が、酒の犠牲になった。福岡の25歳の建設作

業員は、酔って作業員の友人宅に泊まりに来ていた男児2人の顔を殴ったり、ゴルフクラブで叩いたりして打撲を与えた。作業員は「酒に酔ってかっとなつてやった」と容疑を認めているが、男児らが軽傷だったことがせめてもの救いだ。

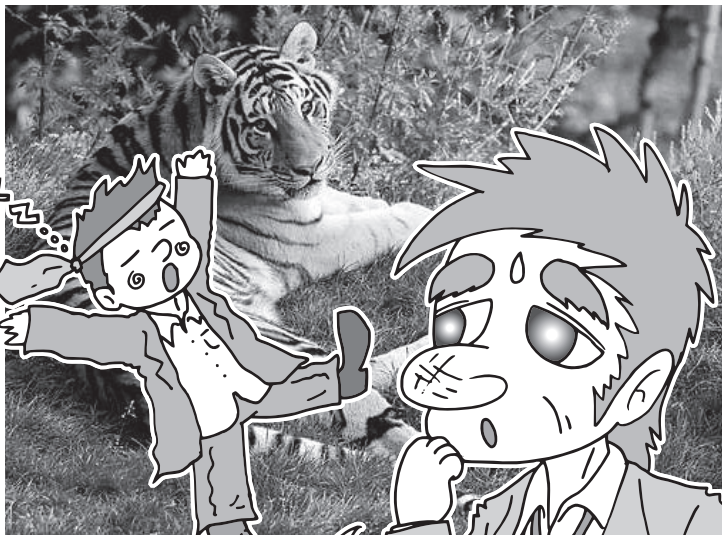
こちらはよくあるケース。被害者はタクシー運転手。埼玉・熊谷で運転手を突き飛ばしてケガを負わせ、乗車料金730円を支払わずに逃走し44歳の無職の男が逮捕された。例のごとく、「酔っていて覚えていない。もう聞き飽きた。さらにひどい事件の情報もたらされた。昭

和大学病院の内科医と研修医が女性に睡眠薬を入れた酒を飲ませて自宅に連れ込み乱暴するという狼藉を働いた。「薬は飲ませていない」と否認しているが、余罪の追及を受けている。事件を起こすのは男だけとは限らない。

2月28日、ひき逃げの疑いで39歳のパート従業員の方が千葉東署に逮捕された。同日夜10時半頃、酒に酔ったまま運転した女は、自転車に乗っていた予備校生をはねてケガを負わせた。「酒に酔っていて（自転車）はつきりわからなかった」と容疑を認めているという。

火を消さなければならぬ消防士が、酔いに任せて暴行事件の火をつけてしまった。

東京消防庁蒲田消防署の消防士長は、乗車中の東海道線内で乗客の女性にいきなり唾を吐きかけた。非番で同僚と酒を飲んだ帰りが、記憶にないとは戯言にしか聞こえない。平成時代末期の2月末から3月にかけてのほんの短い期間の情報だったが、酔っ払い運転から暴行、猥褻事件と相変わらず酒絡み事件が後を絶たない。令和の世でもこうした事件は起きるだろうが、何度か言う。けつして酒は悪くはない。「このぐらいならいいだろう」という弱い意志が事件を引き起こすのだ。



イラスト：菊峰志麻